

○天津司教ステファノ・リー・サイド師の死去○

Zenit 2019年6月24日 — 2019年6月8日、聖霊降臨の祝日の前夜、天津司教ステファノ・リー・サイド師（地下教会）が死去。長年、慢性の病気に苦しんだ末のことであった。

ステファノ・リー・サイド Li Side 司教

1926年10月2日に河北省唐山の代々カトリックの家庭に生まれる。子供の時から神に自己を捧げる召し出しを感じ、1940年、その地方の小神学校に入る。1955年7月10日、天津教区の司祭として叙階。

共産党が政権を握った1950年代の困難な時期に、1958年逮捕される。1962年に一度釈放されるが、1963年再び逮捕、収監。1980年まで強制労働を課される。

1982年、天津の聖ヨセフ司教座聖堂で司牧の仕事に戻り、政府の公認を得ずに司教に叙階される。



死の時まで監獄に

1989年、三度目の拘束。1991年まで牢獄に。1992年、中国当局は（天津から北東に1400キロ離れた）黒竜江省の双鴨山の山村に軟禁し、司教はそこで死んだ。病院に行くときだけ一人で外出できた。

信者たちから遠く離れて追放生活を強いられていたが、はるばる司教を訪問しに行った信者たちは多かった。司教はつねにカトリック教会の原則を守り、キリストの福音の忠実な証人で、英雄的にペトロの後継者（ローマ教皇）とのつながりを維持した。



忠実で謙遜な牧者

ステファノ司教は信者たちからとても愛され、司祭と信徒たちにとってしっかりした支えであった。聖母マリアに篤い信心をもち、教会の福音宣教と使命にしっかり気を配っていた。司祭職への召し出しを探すことを心がけ、1994年にイエスのみ心と聖母の汚れなきみ心の修道女会を創設。また、最も貧しい人々への司牧的配慮も忘れなかった。

祈りの人で、神への奉仕にすべてを捧げ、貧しさと深い謙遜の中に生きた。信者たちにはいつも国家の法律を遵守し、貧しい人を助けるよう励ましていた。その長い一生は様々な苦しい事件に伴われていたが、それらを主の御旨として受け入れ決して嘆くことはなかった。

葬儀（以下、<http://catholic-i.net/japan/page/5/>による）

アジアの有力カトリック・メディア ucanews.com が12日に香港発で伝えたところによると、・・・天津市の地下教会のリー・サイド司教が6月8日になくなり、10日に葬儀ミサが行われたが、同司教の跡を継ぐとされている Shi Hongzhen（石洪禎）補佐司教をはじめとする地下教会の司祭たちは排除さ

れた。現地の教会関係者によると、特に Shi 補佐司教は現地当局による24時間の監視体制に置かれ、葬儀ミサは政府・党の規制下にある天津天主愛国教会が取り仕切った。地下教会の司祭たちは当局に補佐司教に葬儀ミサを司式させるように求めたが、故リー司教も Shi 補佐司教も当局が承認していない、として拒否され、墓地での埋葬式も地下教会の司祭たちは立ち会うことができず、墓石に「司教」と書き込むことも禁じられた。葬儀場での死者ミサを地下教会の司祭が司式することは認められたが、信徒たちによる写真撮影は禁じられた、という。現地の信徒が ucanews.com に語ったところでは、リー司教の訃報はインターネットで流されたものの、短時間のうちに消去されてしまった。



(写真は「司祭」というタイトルしか許されなかったLi司教の墓石=ucanews.comに現地関係者が提供)